

りんたろうと いのちの種

たね

「山、森、雨、土、獣。
みんな自然の一部で、みんな同じ自然。
もちろん私たち人間だって。」

同じ自然の一部として、自然の力を授かりながら生きる。
脈々と受け継がれてきたそんな人々の営み。
この村に暮らす人々の根底には
自然への畏敬の念が流れています。

これって
な〜に？

Check! 3 椎葉の郷土料理 「わくど汁」

椎葉村では、ソバを練って手で引きちぎって平たい団子のような状態にし、野菜入りの味噌汁の中に入れて食べています。“わくど”とは蛙の意味で、煮えたぎった汁の中で踊るソバ団子が、蛙に見えることから「わくど汁」と呼ばれています。



Check! 4 焼畑

椎葉村で行われている伝統的な焼畑は、日本で唯一の貴重な事例といわれています。古くから伝わる農法である椎葉の焼畑は、小規模な範囲で森林を伐採し、木材を搬出、下草を焼き払って耕地を形成し、1年目ソバ、2年目にヒエやアワ、3年目はアズキ、4年目はダイズを栽培します。その後、約30年程度の休閑期間を設けて森林の力を回復させ、再び焼畑を行なう循環的な農法です。



Check! 5 神楽宿

椎葉村内の26地区で、それぞれに独自に進化を遂げた神楽が伝えられています。毎年11月中旬から12月にかけて、集落内の集会所などを神楽宿とし、地元の人総出で夜通し神楽を舞う「夜神楽」が行われます。神楽を舞う場所を御神屋（みこうや）にして正面奥に神々が住む高天原（たがまがはら）を設け、注連やえりもなど装飾をして神楽を舞います。狩猟の要素が色濃く残る椎葉の神楽には、祭壇にイノシシの首が供えられているものもあります。



お話し
の
舞台は？

Check! 1 椎葉村

宮崎県北西部、九州山地の中央に位置する人口2,600人ほどの村。537.29km²と広大な村土のうち96%が山林で、1,000mを超える峻険な九州山脈に抱かれていることからほとんどが傾斜地となっています。平家落人伝説が伝わるなど現在でも独自の文化を有し、神楽、臼太鼓踊、ひえつき節をはじめとする民謡、古くから伝わる慣習や伝統文化を大切に継承しています。

Check! 2 十根川重要伝統的建造物群保存地区

この地区では「椎葉型」といわれる独特の建築様式の民家と、それに隣接する馬屋・蔵、そして屋敷を構築する石垣が樹木林と程よく調和し、歴史的景観を保持しており、1998年12月には、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。平家追討の命を受けた那須与一宗高の弟、大八郎宗久が椎葉に入り、椎の葉を以って陣屋を設け追討の拠点にしたことが「椎葉」の名の由来と言われており、その陣屋跡がこの十根川地区の中心地であったとされています。



仙人の棚田

「椎葉のマチュビチュ」とも呼ばれる下松尾地区の棚田。かつては焼畑農業が盛んな地区でしたが、約150年前、約4キロにもなる水路が開拓され棚田が形成されていきました。夏は青く輝く水田が美しく、秋は黄金色の稲穂が風にそよぐ…。向かいに展望台があり、四季折々で異なる美しい風景を一望できます。



世界農業遺産高千穂郷椎葉山地域

2015年12月、伝統的な農業と農法と、それによって生まれた文化や土地景観、生物多様性に富んだ世界的重要な地域について、保全と持続的な活用が図られることを目的として、椎葉村を含む5町村「高千穂郷・椎葉山地域」がFAO（国連食糧農業機関）から世界農業遺産に認定されました。険しい中山間地で複合的な農林業の経営、地域一体となつての伝統文化の継承などが評価されたものです。

ショートムービー
「二人が見つけた、
美しき椎葉」
公開中!

